

現在、日本は飽食の時代と言われ市場にはありとあらゆる食べ物が溢れています。世界中で食べ物の種類は恐らく一番多いのではないのでしょうか？超高級食材から珍味までお金さえ出せば何でも手に入れることが出来ます。しかし良く考えてみるとそのほとんどが輸入されたもので、食料輸入率は世界最高で自給率最悪とされています。ちなみに輸入せずとも供給出来るのは米くらいで、日本食の筆頭である味噌汁に使われている野菜や味噌の小麦、納豆・豆腐の大豆、テンプラで使う油の菜種等々日常の食卓に乗っている汁や惣菜もほとんどは遠く外国からの輸入品です、食料自給率35～40%の国は世界中さがしてもほとんど有りません。先進国と言われている国はどうでしょうか？欧米諸国の主要食料自給率は98%以上、それも特別な食材を含めてのことですから、通常の食事では100%自給出来ます。国土の違いはあるでしょうが、「食料は国の根幹」という思想が為政者や国民に徹底されており、戦略的のものも含めて農業政策を取っているからだと思えます。振り返って日本の現状は、猫の目の様に変る農業政策と選挙の票欲しさの補助金ばらまきによって農業は荒廃し、農家の80%が後継者が居ないと言われています。又食料流通に携わっている者も目先の利益のみを追い、国の食料環境等は全く考えていません。消費者も美味しい物を追い求め無駄に資源を浪費するばかり（100グラムのハマチの刺身を造るのにハマチの餌となるイワシやアジ、その他の魚が4キログラム必要）で、昔の様にイワシやアジそのものを食べればはるかに水産資源の節約になると思えます（栄養的にはそれ以上です）。近時水産資源の枯渇が問題になっていますが、いずれマグロは獲れ無くなるのではないかと恐れ始めました。又最近アメリカではバイオ燃料（アルコール燃料）が車に使用され始めました。材料はトウモロコシで、アメリカ政府の農業政策もあって広大な小麦畑がトウモロコシ畑に転作され小麦の市場価格に影響を及ぼすまでになっています。今はまだ小規模ですが、本格的になればどうなることか判りません。たかが小麦と思う方も居るでしょうが、100%近く輸入に依存している日本は、製粉から畜産まで大きな打撃を受けることは必至です。（2月に小麦の出荷価格が昨年に比べて30%アップ、これは投機的な値上げの様に一時的では無いだけに深刻）既にパン・うどん等小麦を使う業界は商品の値上げを始めました。今後もこれに追随して食材の値上げが中国の事件も含めて予測されます。もう一つ大きな問題があります。それは中国・インドとその他後進国と言われている人口で、中国13億人・インド10億人その他2億人の人達が欧米人・日本並の食生活を始めた場合（テレビ等で紹介されている豪華なメニューは極一部の国民で大多数は質素な食事だそうです）肉を生産する為の飼料（中国では豚肉の消費量が10年前に比べて7～8倍に増えている）・刺身を作る為（近時中国都市部では刺身が食べられ始めた）の鮮魚の需要は天文学的な数値になり人口が多いだけに莫大な食材が消費され、日本へ廻ってくる事が難しくなる可能性が多くなり、価格の高騰は避けられません。筆者の勤務している会社の仕入れ担当者のお話では、2～3年前までは食材は「買い手市場」だったそうですが、昨年夏頃から「売り手市場」に変わっており、安価に調達することが困難になりつつあると嘆いていましたが、正に地球規模の食料不足の兆しが出ているのではないかと恐れます。一庶民がこの様なことを論じても所詮「ゴマメの歯軋り」「風車に挑むドンキホーテ」かも知れませんが、一応みんなも考えてみる必要は有ると思えます。貴方の子供や可愛い孫たちの為に・・・